

文化・芸術

「月とスッポン」

1970年 油彩 コラージュ(コルク、台板)
20・8センチ×14・8センチ

桂ゆき (1913～91年)

本作は、「月とスッポン」というタイトルが示すように、どこかちぐはぐで、でもどこかおかしみのある取り合わせを、コルク片など異素材の手ざわりや形の面白さで描き出したコラージュです。

幼いころからくぎやボタンを拾い集めていた桂ゆきは、それらを画面に取り入れる表現へと、自然に向かつていきました。展示室では、ひょっこり顔をのぞかせるようなたずまいで、小さな画面に愛嬌(あいきょう)と毒気がのびやかに息づいています。

エッセー「女ひとり原始部落に入る」でも知られる桂は、日常の片隅に、ふと動きだしそうな気配を感じ取る観察眼とバイタリティーにあふれた画家でした。

(小此木)

※同時開催：特集展示「戦後80年松本竣介と同時代の画家たち」



《名画の扉》

大川美術館企画展
「もこもこどもと大川びじゅつかん」展
「いきもののへや」から